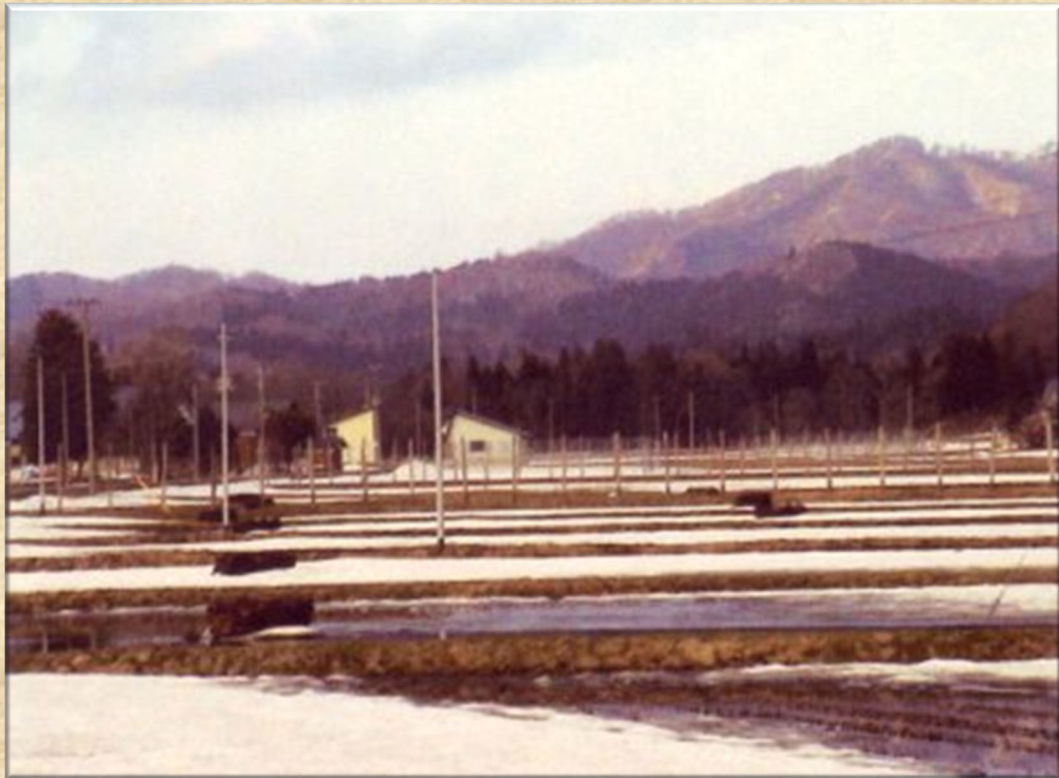


景 [いわたの残したい] 観
Iwate Landscape

西和賀町沢内字弁天 七内集落の道路から見る
ハゼがけ用の杭と肥え引きの見える田の景観



いわてデジタルマップで見る📍

https://www.sonicweb-asp.jp/iwate/map?theme=th_71&pos=140.767022,39.4434698&scale=3750

■ 視点場

西和賀町沢内字弁天 七内集落の道路

■ 視対象

ハゼがけ用の杭と肥え引きの見える田

■ 選んだ理由

昔は稲は、家で飼った馬や牛の糞で堆肥をつくり、それを冬の間にそりで雪で覆われた田圃に引いて、雪に穴を掘りそこに埋めておき、春になると山になったその肥えを田圃にばらまいたと聞いています。それを今もやっているところがありました。それと、その周辺はまだハゼがけの杭が残っていて、昔ながらの景観があり、

感動します。今は、稲刈りはコンバインという機械で、刈って、粃にまでしてしまうのですが、昔は一株ずつ手で刈り、それを田圃のあぜに立てた杭に4段ほどの横棒を渡し、そこに8段くらい稲を掛けて、乾燥させたようです。今は、肥料も化学肥料になり、労力も機械化して、このような姿は見られなくなってきています。この景観を将来とも残すのは無理かもしれませんが、この地域が例えば、県などの、昔の農業の保存地域にでもなれば、昔のままの農業を、地域の人と協力して、残し伝えることができるのではないかと思います。少子高齢化、農家の労働力不足の状況から、この地域も近い将来、圃場整備や、道路の拡張工事などの、公共事業を行う計画になっているとも聞きます。地域の人々の要求で、その方向に進むのでしょうか、町村や、県の環境保全部などの、別な事業として、このような懐かしい、また学問的にも価値のある、昔の農村風景を保存することはできないかと考えさせられます。この景観の見えるところは、西和賀町沢内字弁天25地割のあたりで、ハゼ杭はいつでも見られますが、肥え引きの後は、冬の3月頃から、4月にかけてです。